

# 横幹連合 10 年の歩み



2013 年 10 月

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合

横幹連合 10 年史編纂委員会

Copyright©2013 by 横断型基幹科学技術研究団体連合

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-35-28-303

電話 : 03-3814-4130 E-mail : office@trafst.jp

本著作物の権利は、横断型基幹科学技術研究団体連合に帰属するものであり、著作者の許可なしにその一部または全部を転載、記載することを禁止します。

## ご挨拶



横幹連合会長  
出口光一郎

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）は、2003年4月に発足し、本年で、満10年を経過したこととなりました。この間、「横断型基幹科学技術」という新しい学術の体系を構築すべく、多くの方々が様々な活動を展開してきました。この活動の歴史を10年の節目にあたり文書としてまとめておこうと、本「横幹連合10年の歩み」を編纂いたしました。ここには、横幹連合発足後の歴史資料のみならず、横幹連合はそもそも「何を目指し」、「何を考えてきたか」も提示すべく、横幹連合発足の準備段階での資料も可能な限り収録しました。それらからは、「横断型科学技術」とは何であるのかについて、横幹連合の設立に至る期間と設立以降の数年間をその解釈を巡っての議論に費やすことになった様子がよく分かります。この深い議論を経て、「横断型科学技術」という概念とその存在意義への社会からの一定の認知を得るまでになりました。そして、この議論に基づく多くの活動を展開し、今日の10周年を迎えました。その一つ一つの積み重ねられた活動の足跡には感慨深いものがあります。同時に、それぞれにご尽力をいただいた方々に深い敬意を抱きます。

横幹連合は10年を経て新たなステージへ入ろうとしています。横幹連合10周年を迎えて、関係各位から、これまでの横断型基幹科学技術の必要性に関する啓蒙と学会を横断した活動の普及展開をしてきた点は高く評価できるとの言葉を、多数頂きました。一方で、横幹連合の存在意義の理念に基づいた多様な研究活動のついての具体的な成果が見えにくい。横幹連合設立の成果を、わかりやすい形で示せていないというご意見を頂いています。まさに、これからの10年は横幹理念の実証のときとしなければならないと考えます。

本資料を、今後の横幹連合の取り組みの基盤としていこうと思っています。本資料を手にとった皆様にも、「横幹科学技術」とは何であるのか、横幹連合は何を訴え、何を目指しているのかをご理解いただく一助になれば、たいへん幸いです。

本資料は、2012年度横幹連合理事会のもとに設置した、横幹連合10年史編纂委員会によりまとめられました。最後に、船橋誠壽横幹連合事務局長を中心とした同委員会の史料編纂活動に深く感謝いたします。

## 横幹・温故知新 設立時の新聞記事から

2003年4月7日東京大学  
山上会館にて行われた  
横幹連合設立総会につ  
いては、いくつかの新聞  
にて報道されました。



**◆文理30学会が「横断連合」**  
研究の世界に根強い「縦割り」の弊害をなくそうと、文系、理系を越えた30学会が7日、「横断型基幹科学技術研究団体連合」（会長、吉川弘之・産業技術総合研究所理事長）を設立した。

傘下の学会に加盟する会員は約5万3000人。災害に強い都市計画やロボットなど共通するテーマで共同研究に取り組み。そこで生まれた技術をスムーズに産業応用に結びつけたり、横断研究の重要性について政策提言もまとめる。

【元村有希子】

■毎日新聞  
(2003年4月8日(火))

**中小の30学会結集**  
会員数1万人に満たない中小規模の30学会が結集した「横断型基幹科学技術研究団体連合」が7日、設立総会を開いた。従来の科学技術を横断する新たな学問体系「横断型基幹科学技術」の重要性をアピールし、学問の進

展につなげる。産業界の支援団体を組織することも計画している。

**「横幹連合」が発足**  
懇親会を開くほか、ニューズレターや共通ジャーナルの発行なども計画している。会員データベースや会費徴収など各学会の事務共通化も図りたいとしている。

弘之日本学術会議会長が就任した。事務局は当面、計測自動制御学会が担当する。

ワークショップやシンポジウム、講演会、懇親会を開くほか、ニューズレターや共通ジャーナルの発行なども計画している。会員データベースや会費徴収など各学会の事務共通化も図りたいとしている。

■日刊工業新聞  
(2003年4月8日(火))

**学際的な研究 実現目指す団体**  
30の学会が設立へ  
日本植物工場学会や精密工学会、社会・経済システム学会など三十の学会が7日、学際的な研究の実現を目指して「横断型基幹科学技術研究団体連合」を設立する。自然科学だけでなく社会科学系の学会も参加、文理融合の研究体制確立を目指す。初代会長には吉川弘之日本学術会議会長が就任の予定。

■日本経済新聞  
(2003年4月8日(火))

毎日新聞 2005年11月9日朝刊での科学環境部・元村記者によるコラム

**元村有希子**

「ほかがつくつくり」といえば、いちずな人へのほめ言葉だ。しかし専門ばかりが増えるのは困る。他分野に暗いことを「私は××屋なので」と言い訳する専門家が多くの気がなる。

何とかしたいと考える学者たちが、「横幹連合」というNPOを作った。文系、理系の43学会、延べ6万5000人が参加する。統計、制御、経営など、製造業の基盤を担う分野だが、モノづくりならぬ「コトづくり」を、長野市で開く大会で宣言するという。

これまでのモノづくりは、技術が主役だった。確かに技術の進歩で暮らしは便利になり、日本は世界一のモノづくり大国になった。しかし限界も見えてきた。

高精度な地震計や通信網があるのに、なぜ震災

で多くの犠牲が出るのか。医療技術が発達しても、医療過誤をなくせないのはなぜか。縦割りの、単一の分野や技術だけでは解決しない課題が、社会にはたくさんある。

「コトづくりは……だったらいいな」と私たちが願う価値が主役だ。とすれば実現するかを、分野の壁を越えて模索する。専門や技術は手段として働く。

発想の転換だが、言うほど簡単ではない。大学の学科からして縦割りで、学生は複数の分野を専攻できない。特定の学部には所属せず、専攻も決まらない九州大の「21世紀プログラム」の学生は、就職面接で企業幹部から「いきみの専門は？」の質問攻めにあっている。

政治家は、初対面の相手と見れば必ず「選挙区はどこですか」と聞く。これが研究の世界だと「専門は何ですか」となる。ここから変える必要がある。(科学環境部)

2005年11月26・27日開催の第1回横幹  
コンファレンスを紹介する記事

■日本経済新聞  
(2005年11月21日(月))

## 文理学問融合、初の学術大会 横幹連合 25日から

学問や研究の専門・細分化による限界を打破することを目指す、学会の連合組織「横断型基幹科学技術研究団体連合」(会長・吉川弘之、産業技術総合研究所理事長)は、初の学術大会となる第一回「横幹連合」を二十五日から長野市で開く。

「知のダイナミックデザイン」をテーマとした同会合では二百件を超える学術発表のほか、「コトづくり長野宣言」を採択。文理学問融合による新たな学術領域の確立や、社会問題解決への応用などを目指すことを表している。

横幹連合は二〇〇三年に設立。計測自動制御や人間工学、プロジェクトマネジメント、デザインなど四十三学会が加盟し、会員約六万五千人を擁している。

第1回横幹コンファレンスの際に、会員学会の会長懇談会を開催し、「コトづくり長野宣言」(見返しに掲載)を採択しました。



**第48回自動制御連合講演会**  
**第1回横幹連合コンファレンス**  
開催日: 2005年11月25日(金)・26日(土)  
会場: JA長野県ビル(長野市)

主催: 自動制御連合講演会 [計測自動制御学会(学芸学会)、システム制御情報学会、日本機械学会、生工学会、情報工学会、日本航空宇宙学会、信濃電子学会]、横断型基幹科学技術研究団体連合(横幹連合)  
協賛: 全国製造技術協会、長野県庁、信濃毎日新聞社、信濃毎日テレビ放送、信濃毎日ラジオ放送、信濃毎日インターネット放送

問合せ先: 信州大学 第48回自動制御連合講演会事務局 E-mail: jidou48@pjptc.shinshu-u.ac.jp

## 理工系中心に43学会が参加 「横幹連合」が長野で大会



第1回横幹連合コンファレンスのパネル討論

理工系を中心にさまざまな分野の研究者が連携を図るため、国内の四十三学会が参加するNPO法人「横断型基幹科学技術研究団体連合」(横幹連合)の第一回大会が二十五日、長野市の農協ビルで二日間の日程で始まった。参加する全学会が集まるのは初めて。

同連合は二〇〇三年四月に設立。専門分野を横断する形で意見交換を進め、産業界や国の施策に提言するのが狙いだ。

初日は約三百三十人が参加し、パネル討論や論文発表を行った。パネル討論では、信大工学部の遠藤守信教授ら五人が「異分野と強制的にでも組んで技術や知識を共有すれば、新しい技術やモデルが生まれる」など意見交換した。

同連合は、一連の取り組みを「コトづくり」としており、この日は、人材育成や新しい学術領域をつくり出すことをつたった「コトづくり長野宣言」も採択した。

二十六日は午後零時四十分から、内閣府の総合科学技術会議議員で、元三菱重工常務の柘植綾夫氏が特別講演する。

■信濃毎日新聞  
(2005年11月26日(土))

## はじめに

多くの方々のご努力で、横幹連合が発足し、10周年を迎えることができました。先人の方々のご努力を記録として残そうと、横幹連合10年史を編纂いたしました。このアウトラインは以下のとおりです。

第1章では、発足の前夜から今日にいたるまでの足跡を、総説としてまとめました。第2章では、横幹連合が発出した提言、宣言を掲載いたしました。第3章は、政府から受託したプロジェクトを記しました。その概要は、総説に記しておりますので、プロジェクト報告書の表紙を採録するに止めました。第4章では、産業界との連携の経過を記載しました。2004年に発足した横断型基幹科学技術推進協議会と連携して行った、横幹技術フォーラムとプロジェクトについて記載しました。第5章では、研究推進として、2005年から始まったコンファレンスとシンポジウム、調査研究活動について記載いたしました。第6章では、会誌「横幹」やホームページを通じてのニュースレターの目次を記載いたしました。第7章では、10周年を記念して、総合科学技術会議議員のお立場からご支援いただいた方々、歴代会長、設立当初の副会長から会誌「横幹」にいただいたご寄稿を掲載いたしました。第8章、第9章には、詳細な年表と歴代役員を職務別にそれぞれまとめました。

横幹連合10周年史編纂委員会

## 目次

1. 総説 . . . . .	1
2. 政府提言・声明など . . . . .	14
3. 政府プロジェクト活動 . . . . .	30
4. 産業界との連携 . . . . .	35
5. 研究推進 . . . . .	50
6. 会誌・広報 . . . . .	53
7. 寄書（会誌への寄稿等） . . . . .	69
8. 年表 . . . . .	113
9. 歴代役員等職掌 . . . . .	121